

「地域における就労継続支援・生活介護活動への参加 —障害者とともに同じときを過ごす—」

担当教員名 國則 守生

コース概要

日程	2017年2月7日～2月28日の4日間
場所	埼玉県三郷市
参加人数	12名

コースのねらい

このフィールドスタディは知的障害者・精神障害者が地域で生活するために行う作業や活動に学生が参加して地域での障害者福祉活動を理解し、学生自身が地域で何ができるのかをフィールドで考え実感してもらうことを目的に実施しているプログラムです。

コースのねらい

このフィールドスタディは知的障害者・精神障害者が地域で生活するために行う作業や活動に学生が参加して地域での障害者福祉活動を理解し、学生自身が地域で何ができるのかをフィールドで考え実感してもらうことを目的に実施しているプログラムです。

内容

フィールドの現場は埼玉県三郷市の社会福祉法人（緑の風福祉会）で、春季休暇期間の事前に決められた4日間、施設を訪問しました。参加活動は大きく分けて①生活介護および②就労活動（パン製作・販売、古新聞などの回収、各種の軽作業・内職活動）の2つの活動に大別されますが、参加学生は施設利用者の4つのグループのなかに入って活動をしました。

障害者と活動をともにするのが初めての参加学生も多かったが、4日間の実習を通じて、さまざまな気づきを体験しました。

学習を終えて

実習の記録を残すべく、4日間の実習記録を記載したフィールド・スタディ・ノートを作成したほか、①参加目的、②参加前後のそれぞれの感想、③パン販売に関する施設への提案ならびに④障害者福祉に関する自由調査などを取りまとめた報告書を作成しました。以下は、気づきの一部です。

「今回のFSで気づかされたのは、ある障害を持つその方を「良く知る」という施設の姿勢だった。何かの基準に合わせるのではなく、本人を中心に考えていた。自立するために過度に「できること」を求めずどう支援するのか。その構成も、「できないこと」の支援や残存能力の活用に偏ると、支援＝「できないこと」は、失敗のない縛りの支援になり、本人も自由がなくなる。しかしこの施設では、ありのままの姿を「良く知る」ことで、そのまま本人が居心地よく過ごせるよう考えられていた。」（4年 黒澤多美子）



フィールド・ノートの記入



実習後の学生間の意見交換



翌日の内職作業の用意